

2023年度 北海道レフェリーアカデミー第5回 事業報告

報告者：高須賀 哲平（旭川）

【日時】2023年7月15日（土）、7月16日（日）

【場所】旭川市東光スポーツ公園球技場、旭岳

【参加者】審判員：高須賀哲平、丑屋幸大、及川凌夢、岩本駿士

インストラクター：古曾部統太郎氏（RAM）、今川一輔氏（RAI）、岡田渉氏（RAI）

オブザーバー：森英樹氏、村山尚哉氏、小宮圭示氏、砂川邦裕氏

【研修テーマ】気づきを行動に移す

7月15日（土）

10：00 集合 @旭川市東光スポーツ公園球技場

11：00 試合実践 2023 U18 道北ブロックリーグ1部・2部・3部

（1試合目と2試合目はイントレ事業と合同で実施。副審、4審は帯同審判員に担当していただきました。）

1試合目 旭川実業高校 3rd vs 旭川北高校 主審：高須賀 担当 INS：小宮氏

〈INS分析〉

- 常に審判チームのリーダーとしてチームを引っ張っていた。
- FK時、スローインの位置修正などマネージメントがスマートであった。
- ゲームを通して必要な時にスプリントが行っていた。

今回の副審、4 t hはユース審判員ということで不安を持ってゲームに臨んだのではないのでしょうか。ゲーム前の打ち合わせも十分にできたのでしょうか。そのような状況で主審がフォローしようとするあまり差し違いや旗の見落とし、交代の手続きの遅延などが起こってしまったように思います。差し違いについては、副審のシグナルを確認してからシグナルを出すようにし、もし、判定に相違があったときは笛を使って修正をするとよいでしょう。また、交代の手続きについては、ゲームを通して視線を送れるタイミング（ボールアウト時など）で4 t hをみることによって交代があることの情報事前に得ておきアウトオブプレーとなったときスムーズに交代の合図ができるようにしておきましょう。

2試合目 旭川明成高校 vs 旭実 F C 主審：丑屋 担当 INS：砂川氏

〈INS分析〉

- 44分、カウンターからのスピード、動き出しにはいいものがあったところ
- 概ね主審が判断したこと（判定も含めて）尊重できるところ
- 全体を通して、主審として最後までやらなければならないことを終えることができた点



雨天での試合ということもあり、体力の消耗やコンディションを整えることが難しかったことでしょう。暑い日に試合もあつたりしますが、任された試合に向けて常に準備をしておくことが大事です。スピードにはいいものがあるので、試合展開に合わせたON・OFFを使い分けながら、自分の体力に合わせてポジショニング・動き出しの工夫があるとさらにいいです。警告が必要であった79分の事象について、警告できなかったとしたらどこに問題があるのか、考慮事項を整理して競技規則の理解を深めてほしいです。試合の展開によっては、1つの懲戒処置に誤りがあることで、ゲームコントロールが難しくなります。主審として任されているので、

自信をもって強さを見せたいところです。前回の課題であった立ち止まって見てしまうクセは改善されつつあると思います。判断や見極めに説得力あるポジション・距離感とはどんなものなのか、追求してください。お疲れ様でした。

3 試合目 旭川商業高校 vs 旭川実業高校 4th 主審：岩本 担当 INS：岡田氏

〈自己分析〉

今回は一歩目の動き出しを意識しました。この試合では一歩目の動き出しはスムーズにできたと思いますが、初速が遅くもっとカテゴリーが上がると距離を離されることに繋がるので、日常のトレーニングが必要であると感じた。もう1つの課題の「かもしれない」の意識については、FW が前からプレスをかけているときに少し下がりながら監視はできたが、もともと自分が高いポジションを取っているため、下がる距離が長くなること、低いポジションを取ればロングボールを蹴られたときにかなり距離が離されてしまうことで、高いポジションと低いポジションのどちらを取ればいいのか迷うこともあった。

〈INS 分析〉

終始雨の中でのレフェリングお疲れ様でした。決していいコンディションではなかったですが、運動量も落ちることなく、判定も取りこぼしがなかったと思います。岩本さんのレフェリングをアカデミーを通して数回拝見しておりますが、コンタクトに対しての見極めは一定の評価はできると考えていますが、そのコンタクトのシチュエーションが課題ではないかと感じました。今回のハンドリング(後半10分)、前回の小別沢グラウンドでの試合の時もシチュエーションに対して触れたかと思います。おそらくですが、警告のラフプレーは取りこぼさないと思います。SPA や DOGSO などはシチュエーションに対してアンテナを張らないとこれから苦しくなると思っていますので、今一度精度を高めてください。期待しています。

4 試合目 旭川明成高校 2nd vs 旭川工業高校 主審：及川 担当 INS：今川氏

〈自己分析〉

タッチジャッチ、ファウルの判定は自信をもってできました。落ち着いてゲームコントロールもできました。争点との距離はいい距離で監視できていましたが、角度をつけると手のファールなどももっと監視できるようになると思いました。

〈INS 分析〉

荒天の中、大変お疲れ様でした。毅然さに加え、冷静にコントロールしていた印象です。判定も一貫性があり大きな成長と今後の可能性が感じられました。この試合での課題は2点。①1つのプレーが終わった後のポジションングに工夫が欲しい。何かあるかもしれないという気付きを持つ。②FK 後や、パスコース等を空けた後など、競技者には邪魔になっていないが、その後争点から遠くなる場面があるので動き出すタイミングを早くしたい。以上です。今後も期待しています。

19 : 15 諸連絡・解散



7月16日(日)

07:30 集合(トヨーホテル) 前日の試合振り返り

10:00 旭岳ロープウェイ山麓駅到着

14:00 旭岳 登頂

〈登山をしたアカデミー生の感想〉

高須賀「人生で初めて登山を経験し、その初めてが北海道最高峰の東川町の旭岳でした。山というものをなめており、ロープウェイから7合目まではタンクトップと短パンで登っていましたが、7合目以降は雲の中に入っている状態で登ることと標高が上がっていくにつれてかなり気温も下がり、頂上に到着したころには長袖長ズボンでピステまでも着ている状態でしたがこれもまた思い出です。登山している方に外国人やお子さんからご年配の方、トレイルランを行っている人など様々な人がいましたが、すれ違うたびに挨拶をしてもどんな方でも必ず返していただき皆さん優しいお方ばかりだという印象を持ちました。この登山を通してたくさんのことを学び、再確認することができました。今後の人生に今回の経験を生かしていきたいと思います。」

丑屋「初めは余裕で頂上まで行けると思っていた旭岳登山でしたが、そんなことはなかったというのが正直な感想です。下から見て山頂だと思っていたものがそうではなく、そこからの道のりも長く挫けそうになりましたが、山頂まで行った時の達成感は今までに感じたことのないものでした。山頂でコーヒーを飲む人が多いとよく聞くとありますが、頂上まで行くと不思議とコーヒーを飲みたくなります。缶コーヒーを買っていけば良かったと後悔しています。また、雲がかかっていて山頂からの景色を見ることはできなかったのでもいつか機会があれば晴れた日に山頂でのコーヒーも含めてリベンジしたいと思います。登山をしている人は幅を使って登っていました。なぜ、こう登るかと思い実践してみました。すると、傾斜の厳しい山でも少し楽に登ることが出来ました。まさに、「塵も積もれば山となる」だと思います。小さな積み重ねが大切だと学びました。今回の登山を通して得たものや学んだことを今後の審判活動や私生活に活かしていきたいと思います。とても楽しかったです。」

岩本「初めて登山をしましたが、やってよかったなというのが正直な感想です。すれ違う人と挨拶を交わしたり、道をたくさんの方に聞いたりしたが、多くの方が優しく接してくれました。登山を通して人として重要なことを学んだ気がします。みなで「山頂まだか」とか言いながら登り、最後登り切った時の達成感を味わえるのが登山の最大の魅力であると感じます。また登山はトレーニングとしても最適であると感じました。週一回登山トレーニングをするのは難しいとは思いますが、不安定な足もとても転ばないように足の運び方に気をつけるなど、下半身の強化には最適であると思いました。また4期で登山できればなと思います。」



及川「初めての登山で最初は山を舐めていたのですが、普段使った事のない筋肉を使い、汗をいっぱいかかれ山からの洗礼を浴びました。とても反省しています。登山スタート時はみんなおしゃべりしながら登っていましたが登るにつれて傾斜や道が険しくなりみんなの口数も減りひたすら山を登っていました。そんなときでもみんなで頑張るぞとかもう少しだなどプラスになる言葉を掛け合って登った結果無事に頂上までたどり着けました。これこそワンチーム！！頂上まで登れて景色は何も見えませんでした。達成感やまた登りたいという気持ちも芽生えました。山は最高です。今回は頂上で絶景をみることができませんでしたが、次登る機会がある時は絶景を目指し山にリスペクトの気持ちを忘れず登山を楽しみたいなと思いました。疲れましたがほんとにいい経験をさせてくれた最高の1日でした！！」

<RAM 古曾部感想>

今回アカデミーのカリキュラムで登山を取り入れた目的は、①審判員・インストラクターの協力関係をさらに深める ②体力強化 ③他の登山者との触れ合いを通して、コミュニケーション能力の向上 でした。結果、想像以上の効果が得られたと感じました。登山者が何百人という中で、挨拶から始まりお互い励まし合うなど、同じ目的を共有した他者とのコミュニケーションが多くあり、笑顔で接することができていました。アパレルを着用していたこともあって「JFA」のロゴを見た多くの登山者が「サッカー」関係者であることに触れていただき、改めて「JFA」の認知度の高さも知ることができました。また、私たちは今回の登山に何か特別な準備をしたことはなかったですが、審判員の感想の通り、多くの困難もありました。準備の大切さも気づくことができました。審判員の充実した表情を見て、実施して良かったと思うことができました。

16:00 諸連絡・解散

